

平成23年度第1回中原区区民会議アンケート個別集計

資料4

ID	氏名 課題調査部委員 には○	1 「地域における子育て応援体制づくり」に向けて区民会議としてできる可能性のあること			2 「子育て応援体制づくり」として「とどろきアリーナ」の避難生活者にてできること				
		1-① 目指すもの	1-② 今までの意見	1-③ 区民会議として実現の可能性のある具体的な取り組み	2-① 現状	2-② 考え方	2-③ 実現の可能性のある具体的な取り組み		
				ア 地域とのかかわりについて	イ 世代間交流について	ウ その他			
1	川連 昌久	-	-		子育てサロンの開場には女性の年配者が参加して若いママさんたちに子育てのアドバイスをしてあげると最高ですね。	アンケート提出日が早すぎて意見もかけないですね。先日はじめて中原中学校での子育てサロンを見学させていただきまして、確かに感じたことは、若いママたちの交流の場になるように主催者側が気を配る必要があるということです。そして子育てに疲れたり、困ったりした時にはここに電話(行政)をするように念をおしておけば大丈夫だと思います。5月になりましたら、丸子、玉川老人いこいの家の子育てサロンを見学したいと考えています。	-	人の話ですが、避難されている大人については避難生活者という感じが無いということですので、子どもさんをどうするかとなりますね。	公園井戸端会議プロジェクトさんの出番だと思いますが！
2	反町 充宏	-	-	子育て支援に係る事業を行なっている地域の団体の代表者(担当者)から現場の声などをできるだけ多く集め、今何が必要なのか、区民会議にどういった役割を求めめるのか、といった意見をより詳細に聞いてみたい。同時にそういった活動をしている団体や人材の情報を整理したい。それらを集約し、その潜在的な力や可能性を生かすためのコーディネートをしていきたい(団体同士や個人の連携・つながりを促進させるための提案や調整を行なう)。	区民会議としては、世代間交流の仕組みをつくるのが大きな役割のひとつだと考えます。そのため方法として、まず具体的な考え方や基準を定め、それを周知させるためのセミナーなどを開催し、地域の人材の中からコーディネーターを発掘・育成していくのがよいと思います。	私自身もこの地域で暮らす一人の区民(人材)として、具体的な行動に積極的に参加していきたいです。	-	被災され、様々な困難の中、川崎に来ていただいているものと思います。心身が少しでも癒され、同時にここ川崎の中原区によい印象を持ってもらえる様な対応をさせていただきたいです。しかし、現在は毎日のようにイベントが行われていると伺っています。しばらく(1-2ヶ月)は様子を見てから具体的な行動でもよいかもしれません。	・中原区の魅力を伝えられる様なツアー(ガイド付きの散歩)。 ・ミニコンサート(子ども向け、大人向け色々)。 上記のような企画ができればと思います。※これまでのイベント内容などをふまえ、避難者の方のニーズや不足している部分をうまくフォローしていきたいです。
3	寺岡 滋	-	-	・地域の保育園、幼稚園、いこいの家等を活用して友達づくり、親子遊び、相談相手の場を提供する。 ・地域の商店(子どもの人数、年齢でポイントを考慮する=経済支援)、企業(物割り支援=子どもの思考力、創造力の向上支援)の協力を得る。	・保育施設の送迎、放課後、土日曜日における学習生活指導の支援。 ・登下校時の子ども見守り活動、公園の遊具設置、安全点検等で地域住民と交流の機会を提供。 ・子どもと共に食の大切さを学ぶ文化活動。	子どもの希望や夢を大切に、家族形態、雇用状況等の複雑な時勢で家族や親の負担を社会全体で支えて応援することが大切だと思う(子育てを応援することは未来への投資)。	-	イベント、炊き出し、音楽、体操等は今まで実施されてきていますし、今後も支援者が予定されると判断します。避難生活されている方と雑談をしてその中からヒントを得ることがよいかと思えます。	4月18日の資料から判断しますと、20-60歳代の方が約70名避難されています。この年代の方はこれから退屈や就労不安が増大するかと思います。自ら体を動かし、考えを除去できる支援が必要ではないでしょうか。川崎市に本社、工場のある企業で東北地方にも工場を有している企業がありますので、川崎で働き、帰郷後、東北地方で就労できる支援の手伝いまたは地域の環境関係の業務支援、今まで取得された農業技術や川崎の農業関係者に伝授していただく方法など。
4	富岡 茂太郎	-	-	・子育てサロンに中学生に参加してもらい、体験、体感し交流を持つ。 ・学校との連携交流。 ・学童の通学路の安全確保、あいさつ運動、パトロール活動。 ・ネットワークづくり(関係機関、団体)。 ・ボランティア体験の提供。	・町会行事に参加、各団体の人達との交流をする。 ・昔の遊びや地域の伝承文化、農作業体験、子どもと高齢者の交流。 ・子ども会活動、イベントを通じて世代間交流を行なう。	・相談を聞いてあげる。話し相手になる。 ・身近な相談相手(民生委員児童委員、地区社協の委員、町会の役員、地域の長老、おじいちゃん、おばあちゃん)。	-	長期的な支援になると思われ。長い目で支援をしていきたい。心願していただき、がんばっていただきたい。	3階のプレイルーム、体育室を利用して子育てサロンを行なう。そして相談相手になり、いろいろな課題の抽出をする。
5	芳賀 誠	-	-	地域の代表の委員の方をお願いする。	中原区には一年を通じていろいろなイベントが開催されている。これらは目的も対象世代も異なるため、これらを活用する。同時に全部は無理。近隣世代の交流を重ね合わせ、つなげる。	1ヶ所直接。1ヶ所では貸室の支援をしている。両方とも利用者の気持ちを大切に進めている。乳幼児以上の子育て支援策がないといわれるが、川崎市ではワクワクラブ、子ども文化センターでの幼児-中学生まで対応した子育てを行なっている。	-	不自由されていることはわかる。しかし、区民会議として直接手を出すのはいかがかと思う。	委員の中に子育て等に関係している団体の方をお願いする。区民会議としては必要な事柄のバックアップをする。

平成23年度第1回中原区区民会議アンケート個別集計

ID	氏名 課題調査部委員 には○	1 「地域における子育て応援体制づくり」に向けて区民会議としてできる可能性のあること			2 「子育て応援体制づくり」として「とどろきアリーナ」の避難生活者にできること				
		1-① 目指すもの	1-② 今までの意見	1-③ 区民会議として実現の可能性のある具体的な取り組み	2-① 現状	2-② 考え方	2-③ 実現の可能性のある具体的な取り組み		
6	○ 藤嶋 とも子	-	-	ア 地域とのかかわりについて 区民会議として私たちが向向いて区民の声を聞き、話し合うようにしたらどうか。特に子育てをされていて部屋に入っていて外で遊ばせない、その親と子を連れ出して公園と一緒に遊ぶように区民委員がしたらどうか。	イ 世代間交流について 公園で子ども、お母さん、お父さん、お年寄りと一緒に遊んでゲームしたり食事したりする。お祭りを春も夏も四季が変わるたびにやってみたらどうか。	ウ その他 何事をするにも区民会議の存在を知ってもらうことが大事だと思います。	-	区民会議の委員たちはそれぞれ代表として来ているので、分野で生活相談にのって差し上げるようにしたらどうか。	・育児、老人(民生)、町の案内、学校、教育、文化面などで相談にのってあげ、チラシや案内状を置くのはどうか。 ・一緒に食事会などを開いて懇親を深めてはどうか。 ・中原区役所へ招待し、4階で懇親会を持つようにしたいと思う。
7	松原 清一	-	-	・サロンと町会、自治会連携支援。 ・母親クラブの活用。 ・同一目的集団活動推進。 ・パパさんサロン開設。	子育てサロン。卒業(0歳→3歳)されたお母さん、お父さんに次なる(0歳→1歳)先生として指導。	中原商連または各地区の商連。子育て支援商品券はどうか。	-	4月4日(大戸社協)避難生活者がきましたが、心のケアが必要である。いうまでもないが、避難生活者の笑いが出るようなもの!	・中原地域の民話、紙芝居。 ・リハバイバル映画。
8	○ 松本 玲子	-	-	・区民の温かい声かけ、見守りにより、子どもたちの安全安心な環境づくりと、健やかな育ちを応援しているという共通意識の確認のためのスローガンを掲げる。例えば、中原区児童委員活動強化推進委員会のテーマ「地域に広めよう子育ての輪→子育てサロン、あいさつ運動」のポスターを作成し、子育てにやさしいまち宣言を区民会議で発信する。 ・子どもに関する相談ことは、区役所子ども支援室の相談窓口につなぐ。また、子育て支援ネットワーク会議や子ども支援ネットワーク会議の取り組みをわかりやすく説明し、区民に紹介する。 ・コミュニケーションが苦手な子どもたちの協調性、主体性を地域行事や祭礼を通して育てていく。 ・家族、地域の絆づくりにはタイムリミットがある。3歳から幼稚園ごろまで。災害時の安否確認や助け合い、思いやりの心が育つ近隣関係の重要性を呼びかける。 ・区民会議委員には区内の子育てサロンを見学、参加して欲しい。	・あいさつをすることでお互い顔見知りになり、地域でのつながりが深まる。 ・赤ちゃん連れの親へ優しく声かけをする(赤ちゃんを介して)。	集団が苦手、コミュニケーションが不得手な方々への対応も考えていかなければならない。	-	・ママ友づくりを応援する。 ・地域活動と一緒に参加していただくことにより支援につながることもあると思います。	・地域の子育てサロンを紹介する。 ・悩みを共有する。
9	○ 山川 哲生	-	-	現在丸子地区で子育て支援の役員としてやっている。丸子地区では年々参加する人が増加して浸透してきている。	老人会会長と子ども会会長との話し合いをして日程の調整を行なうことにはどうか。両者が一方的にどうかということではなかなか行かない。	私は子ども会の会長として長年やっていますが、なかなか役員を受けてくれる人がいなくて苦労しています。	-	現在、色々なイベントを行っているのを新聞、その他で知っていますが、何を行なえば喜んでもらえるのか、大変難しいです。	平日の昼間なら参加できる。
10	吉房 正三	-	-	保育士になりたい若い人が多くなってきて。現在ライセンスをとるために学校に通っている人達を子育ての場所にきて実習してもらい、ボランティアをやってもらえば、将来子育てのリーダー的存在になると思う。	各町会に育成会(子ども会)があります。この若い人達に呼びかけて町会長または各町会の老人会にも広く呼びかけて世代間交流ができればよいと思います。	・3.11の東日本の大震災を教訓に、現在行っている子育ての場所に防災に対するあらゆる備えが必要だと思います。 ・現在行っている子育てのリーダー、それを手伝っているみなさんの意見を聞き、早急に進めなければいけないと思います。	-	ボランティア活動は経験が豊富なスタッフがよいと思います。	・3.11の大震災から早40日以上経ちます。みなさんが精神的にも疲れていることと思います。 ・現在中原区内で活動しているカウンセリング研究会があります。この研究会等に活動するよう依頼すれば効果があると思います。

平成23年度第1回中原区区民会議アンケート個別集計

ID	氏名 課題調査部会委員 には○	1 「地域における子育て応援体制づくり」に向けて区民会議としてできる可能性のあること			2 「子育て応援体制づくり」として「とどろきアリーナ」の避難生活者にできること		
		1-① 目指すもの	1-② 今までの意見	1-③ 区民会議として実現の可能性のある具体的な取り組み	2-① 現状	2-② 考え方	2-③ 実現の可能性のある具体的な取り組み
11	○ 青木 英光	-	-	<p>ア 地域とのかかわりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校児童の登下校時の見守り(安全確保)と挨拶の励行。 ・老人いこいの家(丸子多摩川老人いこいの家は、アクセス、使い勝手が特によい)を月に2回程度、日時を特定して子育て支援に利用できないか。 <p>イ 世代間交流について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進む中で地域のすこやか会(高齢者の介護予防)に保育園児、幼稚園児を招き、参加高齢者との交流を図る。園児は大変な喜びようであります。 ・老人いこいの家、こども文化センターおよび地域の会館を使用して子ども会を通して昔の遊びを始め、季節の行事を折り込んだ世代間交流を開催する。 <p>ウ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で総合学習の一環として子育てサロンを開催し、小学生に心の優しさを育み、命の大切さを学ばせる。 ・公園の整備と管理人の常設。 ・マンションの広場を公園として一般開放していただきたい。 	-	<p>区民への避難生活者の情報提供がなく、聞くところによると避難生活者のイベントへの参加が少ないようです。そこで、避難生活者のニーズにあったイベントの提供、希望に応じることが適切だと思います(避難生活者のニーズの把握を優先する)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜が不足していると聞いています。野菜を中心とした家庭料理をつくらせてあげる。またはつづけてあげる。 ・地域の浴場(丸子温泉の黒湯)に入浴してもらう無料チケットを配布する。 ・区老連のイベント(グランドゴルフ、ゲートボール大会)を早めに開催し、避難生活者を特別参加させる。 ・区民祭のお祭り広場のイベント(例えば盆踊り)を開催する。南相馬の方が多い。 ・中原区の有名な歌手および有名な吹奏楽団を読んでイベントを開催する。
12	○ 稲富 正行	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な機会を通じて現状の取り組みを整理してアピール、拡散する。 ・子育て支援策の拡充(例えばママカフェの開場拡大に向けた取り組み)など各種団体や企業等にも相談するなど、地域への浸透を図る。 <p>地域への浸透を図つたうえで、場を準備して係るを広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ママカフェの考え方をベースに多世代との交流の場づくりを行なう。 	-	<p>支援も大切だが、一緒に交流するスタンスでいろいろな取り組みを行なうことが大事。</p>	<p>交流するための取り組みを行なう。コンサートなどイベントの実施(ボランティアや合唱部に要相談)。区の取り組み紹介や体験の機会を提供する。各種イベントの案内、紹介をする。</p>
13	○ 大下 由美子	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が所属する子育て支援団体での活動や区役所の子育て支援事業の開催時に積極的に参加する。または広報をお手伝いしたいと思います。 ・小中学校PTAでは下校時パトロールやイベントを開催しています。引き続きふるってお知らせい同土お誘いあわせてご参加いただけましたらありがたいです。 ・各中学校区に設置されている「地域教育会議」に関わっていただけますと現在の子育て世代の生の声を聞いていただく機会があるのではないかと考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区役所や市民館で開催されている子育て世代の集い等に参加する。 ・学校でのあいさつ運動が浸透してきたので、次は公園などで実施してみるのはいかがでしょうか。1人では恥ずかしいかもしれませんが、等々力公園の催し物広場などでイベントが開催されている時などはいかがでしょうか。 ・個人的にも近所のママ、パパに積極的に声をかけてみてはいかがでしょうか。私も色々な方々に声をかけていただき、時には叱られて子育てをさせていただきました。自分自身では案外気がつかないことって多いと思います。たまには、「おばさん何？うるさい」といわれてショックも受けませんが、「若造め！」と心の中でつぶやいて自分を振り返ってまいります。 	<p>子育て世代にアンケートをとり、現在のニーズを伺い知ることが必要だと思っています。</p>	<p>押し付けがましくならないよう、細心の注意は必要だと考えます。抱える悩みや苦労を共有したいと思います。</p> <p>まずは今の胸中を伺えたらよいのですが、現在子育て中の方々に、気軽に声をかけられるように声をかけていただけるようになるにはどんなことならできののかを思案中ですが、お会いすれば何か浮かぶかと思っています。きっかけづくりとして子ども同伴の茶話会を開催したいです。茶話会ができれば素人ですがお菓子づくりが好きなので、持っていこうと思っています。</p>

平成23年度第1回中原区区民会議アンケート個別集計

ID	氏名	1 「地域における子育て応援体制づくり」に向けて区民会議としてできる可能性のあること			2 「子育て応援体制づくり」として「とどろきアリーナ」の避難生活者にできること				
		1-① 目指すもの	1-② 今までの意見	1-③ 区民会議として実現の可能性のある具体的な取り組み	2-① 現状	2-② 考え方	2-③ 実現の可能性のある具体的な取り組み		
14	川崎 ○ グラディス	-	-	<p>ア 地域とのかかわりについて</p> <p>地域との関わりを持つためにはまず各々が居住している町内会がきちんと機能している必要がある。しかし、昨今の状況を見ていると、特にマンション住まいの住民には何のお誘いもお声かけもないままに1年が終わっているのが現状のように感じています。そこで、「町内会連絡協議会」を通して、各町内会で催されているイベントの取り組み状況や町内会への呼びかけをどのように行っているかのアンケート調査を行い、町内会費を徴収している会員への行き届いた働きかけについて今一度考えていただける様なきっかけもなればと願っています。</p>	<p>イ 世代間交流について</p> <p>本来なら日常的に世代間交流が行なわれることが理想なのですが、戦後、核家族となった現在の日本では意識的に働きかけない限り世代間交流を図ることはとても難しいように感じています。特に、子を尊重することに重きがおかれている昨今、若い世代ではコミュニケーションが大変希薄となっており、隣にいたる人もメールで会話をしているということも聞きます。</p>	<p>ウ その他</p> <p>学校では施設開放等の取り組みが行なわれていますが、一部の限られた団体(登録制なのでそうなる)しか利用できないため、そこに属していない子どもたちの居場所がありません。「子ども文化センター」や「わくわくプラザ」もありますが、利用するにあたっての制限があるのか、スタッフに問題があるのか、親に強制されて利用している児童をのぞけば子どもたちが好んで利用しているようには見えませんので、検証が必要かと考えています。制度をつくりつばなしにするのではなく、第三者の視点から検証をぜひお</p>	-	<p>可能なかぎり早期に日常を取り戻せるようにというのが、現状では見通しすたたないわけですから、心身にかかるストレスは計り知れない物があると考えています。そこで、自然とふれあえる様な場を確保し、リズムのある日々を提供していくことが大切かと考えます。受動的でばかりいるよりも、能動的であった方が心身のケアを考える時にはとても効果的かと考えます。</p>	<p>近隣に土に触れられる場所を確保し、ミニ菜園に取り組んでいただくというのはどうでしょうか。また、受け身ばかりしていると気持ちが疲弊するように感じるので、視点を変えて、せつかく来ていただいているので、主催者として(もちろんサポートは十分必要ですが)、郷土料理の講習を開いていただくなどはどうでしょうか。100人からの皆様なので、きつと得意としている「何か」をお持ちの方が必ずいらっしゃるのではと思います。</p>
15	杉野 茂彦			<p>就学世代の子どもと地域の関わりは大変重要です。前期の区民会議委員との出張体験は大変刺激になりました。避難訓練体験も貴重なものでした。中学校は避難時の重要な働き手であると感じました。学校はこれからコミュニティスクールを目指しております。昨年コミュニティスクールの指定校となった上丸子小学校の校長先生にお願いして、講演会を開催したらどうでしょうか。「子ども達と地域のきずなの大切さ」をテーマにしたらと考えます。受講者は、区民会議委員、区町連民児協なども支援室ネットワーク(約60団体)但し会場の制限により、人数調整を要します。(区民会議委員のみも可)</p>	<p>小杉地区社協では、世代間交流「子育てサロン」を目指し「中原中学校」と「とどろきこいの家」で6年前頃(当初の区長さんは古場田さんだと思います)現在まで残っています。大成功だったと思います。中学校では、生命の大切さの一環として毎年夏休みに子育てサロンに生徒さんを招き、お母さんと赤ちゃんとの交流をしています。その眼の輝きは、「命の大切さ」につながるかと胸を打たれました。(丸子の青木さんと合同で行っています。青木さんは私の出身校の中原中学校の後輩で、上丸子小に詳しいと思います。)施行区民会議(第一回)で私が報告をさせて頂きました。「継続こそ重要!!」で今日に至っております。</p>	<p>「とどろきこいの家」では対ご老人との正式な交流会は行ってありませんが、自然とご老人とお母さん型との交流はできていると考えます。またサロンにはご老人(リーダーに怒られるかもしれない)のお手伝いの方もいらつしやるのえ自然体でみんな交流しています。老人との交流は、人とか遊びとかを介在させる必要があると考えます。例えば、むかし遊びの達人等が必要になると思います。</p>	<p>4月7日、小杉地区社協で11時～13時半までアリーナ玄関横で炊き出し、輪投げ、体操、話し合いを行いました。素晴らしい方ばかりで、逆に元気をもらいました。(4月8日付けでわざわざご執筆いただいた神奈川新聞佐々木航哉記者には、心から感謝申し上げます)</p>	<p>区民会議で開催するとすると、どこかのプラバン、タレント等々規模が大きくなる考えます。地域のパフォーマンス、社協等の体操、個人的なパフォーマンス等々、細く長くおつきあいしていくのがベターだと考えます。</p>	
16	岡本 治子			<p>上記の意見に取り上げてありますが、子育てサロン等の集合の場がまだあれがあるので、知らない声も時々聞くので、工夫が欲しい。町会など(身近な所)などに出席して紹介をしてもらう。</p>	<p>高齢者が集うこいの家など特別利用させて頂き、サロンより違った自然にふれあう形の交流が出来ればと思います。</p>		<p>母親から子どもさんをあずかれば、ホッとする時間ができるので、最近のお母さんからの話、トイレにも子どもを連れて行くのヨと言っていました。</p>	<p>プレイルームで紙芝居、親子体操など…(遊戯)</p>	